

令和3年1月 6日

南の風 379

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

明けましておめでとうございます！ 今年も『南の風』をよろしくお願いします。

兎にも角にも、新型コロナウイルス感染症の拡大を抑え込まなければなりません。我々のできることを、一人ひとりがきちんと守って行動していきましょう。

今年の最初の話は、第87回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会の決勝戦です。

対戦チームは、大会最多8連覇に挑む ENEOS サンフラワーズ VS 2度目の優勝を狙うトヨタ自動車アンテロープスです。

結果は87対80で、ENEOS が8年連続25回目の優勝を飾りました。

先に Q 毎の得点とスタッツを紹介します。

チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	計
ENEOS	18	23	23	23	87
トヨタ	27	20	16	17	80

	2 P	3 P	F T	R B	T O
ENEOS	25/51 49%	7/20 35%	16/19 84%	37(OR12DR25)	7
トヨタ	22/39 56%	8/27 30%	12/15 80%	40(OR12DR28)	12

第1Q の出だしトヨタが2-3のゾーン（マッチアップゾーン）を敷き高さを生かして、ENEOS のインサイドを封じようとします。ENEOS は、大黒柱の渡嘉敷、高さのある梅沢、3P のスペシャリスト林の3人をけがで欠いていますので、トヨタとすればチャンスです。

トヨタは馬瓜エプリンのゴール下スピナムーブショットやロング、ミドルショット、安間のドライブ、ミドル、三好の2本の3P が効果的に決まり第1Q で27点を挙げる。

一方 ENEOS は、出だしトヨタのマッチアップゾーンを攻めあぐみ、自分たちのリズムでオフェンスができない。そんな中、中村の力強いドライブやゴール下ショット、宮澤の3P やミドルなどで何とか食らいつく。第1Q 終了時 27対18でトヨタリード。

第2Q に入り、トヨタは安間の3P やミドル、三好の3P、新人平下のドライブやフリースロー、ステファニーのドライブやミドルで加点する。

ENEOS は、マッチアップゾーンに慣れてくる。宮澤の2本の3P やミドル、ゴール下のステップショットがさく裂する。また中田がドライブ、ゴール下、フリースローを決め追いすがる。岡本もペイントエリアのジャンプショットを沈める。ただ ENEOS はシステムで攻めるといふより、個人個人が1対1で攻めて凌ぐという形が続く。第2Q 終了時 47対41でトヨタリード。

前半の印象は、ディフェンスではトヨタのマッチアップゾーンが機能していた。オフェンスは、エプリンのパワープレー、三好の3P、安間のドライブやミドルが際立っていた。ENEOS は、苦しみながらも宮澤の3P、中村のパワープレー、中田のドライブやゴール下ショットが光った。